

氏名

点数 点/100点

各論演習 11-1

問1)

次の条件により、全部純資産直入法、繰延ヘッジ会計を適用した場合の損益計算書（一部）および貸借対照表（一部）を作成しなさい。  
なお、解答上、計上する数字がないまたは0（ゼロ）の場合は－（横棒）を記入すること。

(条件)

1. 当期に「その他有価証券」（当期末より1年以内に償還予定）として保有する目的で、額面総額100,000円（1,000口）の国債を額面100円につき94円で購入した。なお、当該国債の購入と同時に、価格変動リスクを回避するため、国債先物によるヘッジ取引（当期末より1年以内に決済予定）を行い、額面総額100,000円（1,000口）の国債先物を額面100円につき97円で売り建て、委託証拠金5,000円を支払っている。
2. 決算時における国債の時価は単価93円、国債先物価格は単価96円であった。
3. (1) の場合には、その他有価証券および先物取引の評価差額には、法定実効税率を30%として税効果会計を適用すること。

解1)

(1) 全部純資産直入法、繰延ヘッジ会計

(単位：円)

損益計算書（一部）			
	⋮		
IV 営業外収益	( )		
⋮			
V 営業外費用	( )		
⋮			
法人税等調整額			
貸借対照表（一部）			
I 流動資産		⋮	
先物取引差金		II 評価・換算差額等	
先物取引差入証拠金		1. その他有価証券評価差額金	
⋮		2. 繰延ヘッジ損益	
II 固定資産		⋮	
投資その他の資産			
投資有価証券			
⋮			

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 11-2

問1)

次の各外貨建取引について、振当処理による仕訳を示しなさい。なお、会計期間は1年、決算日は3月31日である。また、入金および出金はすべて現金預金勘定で処理すること。

- (1)
- ① ×1年12月1日。米国のA社より経営資金600ユーロを借り入れた（利率年1.5%、利払日は5月と11月の各末日）。借入時の直物為替相場は1ユーロあたり118円であり、決済日は×2年11月30日である。
  - ② ×2年2月1日に上記の借入金に対して為替予約（先物為替相場は1ユーロあたり115円）を付した。予約日における直物為替相場は1ユーロあたり117円である。
  - ③ ×2年3月31日決算。決算日の直物為替相場は1ユーロあたり120円であり、直先差額の期間配分は月割計算によること。
- (2)
- ① ×1年12月1日。米国のA社に経営資金600ユーロを貸し付けた（利率年1.5%、利払日は5月と11月の各末日）。貸付時の直物為替相場は1ユーロあたり118円であり、決済日は×2年11月30日である。
  - ② ×2年2月1日に上記の貸付金および利息に対して為替予約（先物為替相場は1ユーロあたり115円）を付した。予約日における直物為替相場は1ユーロあたり117円である。
  - ③ ×2年3月31日決算。決算日の直物為替相場は1ユーロあたり120円であり、直先差額の期間配分は月割計算によること。

解1)

(1) 単位：円

	借方	貸方
①		
②		
③		

(2) 単位：円

	借方	貸方
①		
②		
③		



氏名

点数

点/100点

## 各論演習 11-3

問1)

次の金利スワップ取引について、(1) 原則処理および(2) ヘッジ会計（繰延ヘッジ会計）のそれぞれによった場合における仕訳を示しなさい。なお、ヘッジ会計における評価差額には、法定実効税率30%として税効果会計を適用すること。また、仕訳すべきものが無い場合は、“仕訳なし”と記入すること。

- ① 借入日。当社は乙社より10,000,000円の借入れを行った。当該借入れの金利は変動金利であり、年1回支払う。
- ② スワップ契約日。当社は乙社に対する支払利息について、変動金利利息を避けるため、A銀行と想定元本10,000,000円のスワップ取引（変動金利受取り、固定金利（年0.98%）支払い）を締結した。
- ③ 利払日。乙社への金利支払いを行った（変動金利は年1.00%）。また、A銀行との金利スワップ取引により、変動金利（年1.00%）の受取分と固定金利の支払分について、その差額を現金で受け取った。
- ④ 決算日。金利スワップ取引の時価は2,200円（資産）であった。

解1)

(1) 原則処理の場合

単位：円

①借入日

借方	貸方

②スワップ契約日

借方	貸方

③利払日

乙社に対するもの

借方	貸方

A銀行に対するもの

借方	貸方

④決算日

借方	貸方

(2) ヘッジ会計（繰延ヘッジ会計）の場合

単位：円

①借入日

借方	貸方

②スワップ契約日

借方	貸方

③利払日

乙社に対するもの

借方	貸方

A銀行に対するもの

借方	貸方

④決算日

借方	貸方



氏名	
----	--

点数	
----	--

点/100点

各論演習 11-4

問1)

決算日が3月31日のピュンピュン自動車(株)の次の外貨建取引について、仕訳を示しなさい。なお、当社の為替予約は振当処理（直先差額の期間配分は月割計算によること。）を採用している。また、入金および出金はすべて現金預金勘定で処理し、仕訳の必要がない場合は、“仕訳なし”と記入すること。

- ① ×1年9月1日。米国の銀行ピーマンブラザーズより経営資金600ドルを借り入れた（利率年1%、利払日は2月と8月の各末日）。借入時に借入金600ドル及び利息に対して為替予約（先物為替相場は1ドルあたり118円）を付しており、借入時の直物為替相場は1ドルあたり116円である。なお、決済日は×3年8月31日である。本取引は資金取引なので、振当処理の原則法による会計処理を行った。
- ② ×2年3月31日決算。なお、当該決算日の直物為替相場は1ドルあたり120円であった。
- ③ ×3年8月31日に上記の借入金を利息とともに返済した。なお、当該返済日の直物為替相場は1ドルあたり121円であった。

解1)

	借方	貸方
①		
②		
③		